

小学校

専科指導の

手引 2



目次

- ・専科指導の充実に向けて P 2
- ・誰でもできる外国語活動の専科指導（百合が原小学校） P 3
- ・ボランティアを活用した外国語活動の専科指導（厚別北小学校） P 4
- ・子ども理解につながる高学年担任の専科指導（平岸高台小学校） P 5
- ・専科指導を円滑にするための校務分掌の精選（発寒南小学校） P 6
- ・指導体制の工夫による効果的な専科指導の導入（山の手南小学校） P 7

札幌市教育委員会

平成29年2月

専科指導の充実に向けて

学校体制づくりの推進に向けて

■ 札幌市の小学校専科指導の充実のために ■

- ①年間を通じて、計画的に評価まで行うこと。
- ②高学年を中心に、
各学級において週2～3時間程度実施。
- ③教科は主に外国語活動とするが、
学校の実情に応じて他の教科も可能。

札幌市教育委員会では、子ども一人一人に「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等」の「学ぶ力」を育成することを目指す「分かる・できる・楽しい授業」を推進しており、個に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図る観点から、小学校における専科指導を推

進してきました。

平成28年度は、札幌市研究開発事業の研究課題の一つとして「小学校専科指導の手引1」を活用した、学校体制づくりに係る実践的研究を行いました。

本手引には、実践研究校の試行実践例が掲載されておりますので、各学校においては、本手引を参考にしながら、専科指導を円滑に推進するための学校体制づくりの工夫に取り組み、「分かる・できる・楽しい授業」をより一層推進していくようお願いいたします。



Q&A ～試行実践した学校の報告から～

Q 教科は毎年同じ方がよいのでしょうか？

A 外国語活動だと、固定化するメリットがあります。

学校の実情に応じて、年度ごとに、教師の専門性を生かしてもっとも効果的な指導が行えるよう、専科指導の教科を決めることは重要です。一方で、これから多くの教員が指導することになる外国語活動だと、教材や実践を蓄積することができ、その年度以降にも活用しやすいというメリットがあります。

Q 学級担任が評価だけを行えますか？

A できません。

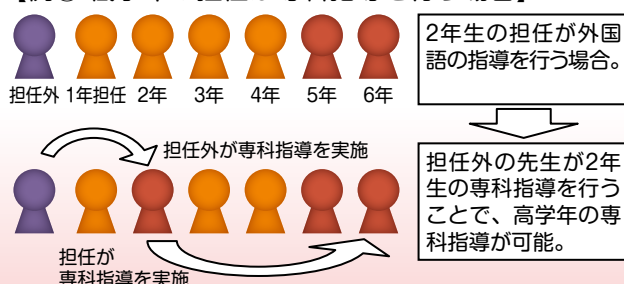
指導と評価の一体化が重要ですから、必ず指導者が評価者であることが授業の原則です。評価を行うに当たっては、子どもに評価をすぐに返すことと、指導者が自らの指導方法の改善につなげることが重要です。専科指導により、信頼性と妥当性のある評価方法への共通理解が進むという効果も期待できます。

Q 高学年以外の担任は専科指導を行えますか？

A できます。

下記例①のような実践があります。

【例① 低学年の担任が専科指導を行う場合】



Q 校務分掌の整理はどのように進めたらよいのでしょうか？

A 計画的に業務分担を示すことが重要です。

学校では、専科指導が行われている時間に、学級の担任は空き時間を活用して、学級事務を行ったり、他の教室へ補欠に入ったり、担任外が行っていた業務をサポートしたりするなどの対応を行っています。

担任外が行っていた業務を担当が空き時間を活用してサポートする場合には、その学級担任に対し、年間を見通した業務内容を示したり、月ごと、週ごとといった単位で、計画的に、その時期に取り組むことなどを示したりするなどの工夫が大切です。

学校では、急な補欠や子どもの支援など、臨機応変な対応が求められることもありますので、教科の時間を確実に確保しながらも、柔軟な対応が求められます。

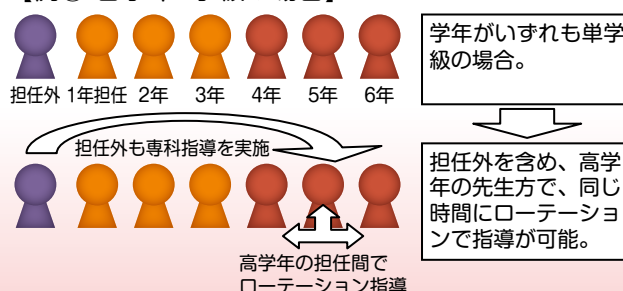


Q 小規模校は専科指導を行えますか？

A できます。

下記例②のような実践があります。

【例② 各学年1学級の場合】



👤: 専科担当 👤: 専科指導が行われる学級または専科担当

誰でもできる外国語活動の専科指導

札幌市立百合が原小学校

実施学年（学級数）	実施教科	実施時期（時間）	指導者
5年（3学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（主幹教諭）
6年（3学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（教務主任）

専科指導の試み

学校づくり編

専科指導を行う教科等については、前年度末に道德や書写も含めて検討したところ、下記のメリットを優先して外国語活動としました。

- ・補欠体制を勘案し、様々な状況に対応しやすい。
- ・継続性を確保しやすい。
- ・記述式の評価である。
- ・次期学習指導要領の動向をとらえ、職員に還元できる。
- ・外国人指導助手（ALT）を活用できる。

通常教室がオープンスペースになっていることもあり、少人数・TT指導・補欠指導等を勘案し、活動場所は、特別教室を基本としています。

ALTの配置日は、他の校務とのバランスを考え、専科担当と学級担任が交互に指導したり、時間で区切ったりすることで、学級担任も外国語活動に参画しています。

ALTの配置日に学級担任が子どもを支援することにより、子どもの活動を多面的に評価できるだけでなく、その経験を蓄積する効果が期待できます。

専科担当が子どもの自己評価を集め、学級担任が専科担当と一緒に指導した際には、子どもの活動評価を見取り、専科担当と学級担任の双方が指導法の工夫改善につなげていくことを目指しています。



継続的な専科指導を進めるために

実践編

指導内容は移行期を見据えながら“Hi, friends!”を中心に取り組みました。英語の絵本の読み聞かせや歌、ゲームなどの教材開発を進めるとともに、教具の蓄積や整理をすることで次年度以降に専科担当が代わっても対応できるような環境を目指しました。

学級・学年の実態に応じ、コミュニケーションを通して英語に慣れ親しむ視点を大切に、授業で行う活動内容に応じて、机と椅子がある特別教室と、無いワークスペースを活用しました。



専科担当は、研修に参加して英語の指導方法について学んだり、他校の実践にヒントを得たりしながら、自校で活用できるような教材の蓄積に努めました。

年度当初に校務分掌の調整はせず、必要に応じて相談しながら業務分担を進めました。

専科担当やALTが子どもを名前で呼ぶことができるよう、ネームプレートを作成しました。ローマ字表記の名前を子ども同士が読み合うことで、アルファベットへの関心を高める効果もありました。

中学校英語教諭が、6年生を対象として外国語活動の授業を年に1回実施しています。中学校において必要なスキルに関する学習のフォローアップをしてもらうことは、学級担任や専科担当にとって指導方法の研修となりました。



成果（☆）と課題（★）

☆必要な時に学級担任の支援体制を取ることで、学校の実態に応じた専科指導ができました。

★専科担当や学級担任、ALTとの連携をさらに密にすることや教材や教具、実践例の蓄積により誰でもできる外国語活動の専科指導につなげていくことが重要です。

ボランティアを活用した外国語活動の専科指導

札幌市立厚別北小学校

実施学年と学級数	実施教科等	実施時期（時間）	指導者
5・6年（各3学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（保健主事）
全学年（21学級）	体育	通年（学年で週1時間ずつ）	担任外（教務主任）

学校づくり編

専科担当と外国語ボランティアとの協力

7年前から外国語ボランティアを募り、担任と共に外国語活動に取り組んでいます。元英語教師、英語塾の先生、留学経験の有る方、海外からいらっしゃった方など、様々な経験をもつ地域や保護者の方が、外国語ボランティアとして、子どもの外国語活動をサポートしてくれます。

外国語活動を専科指導に移行した今年度からは、これまでの実績を活かし、外国語専科担当と外国語ボランティアが協力して、5・6年生の外国語活動に取り組んでいます。

現在、8名の地域・保護者の方を外国語ボランティアとして登録しています。



<外国語ボランティアとの活動の流れ>

- ① 外国語ボランティア募集（年度末・3月）
- ② 外国語ボランティア打合せ（4～5月）
外国語活動のねらいや内容等の説明
- ③ 学年打合せで、2週間分の授業予定を相談
→日程や活動内容をボランティアに連絡
- ④ 活動当日に、授業者と簡単な打ち合わせ

外国語活動が専科指導となってからは、これまで担任が行っていたボランティアとの連絡や打合せを、専科担当が行うことにしました。また、専科担当とボランティアで

授業を進めるため、担任は空き時間を有効に活用できるようになりました。さらに、活動の評価は、振り返りカードをもとに専科担当が行っています。



専科担当＋ボランティアで、学級担任の負担軽減、指導力UP

実践編

今まで担任が行っていた教材研究やボランティアとの連絡・打合せ、授業を専科担当が行うことになったため、担任の学級事務などに充てる時間が増えました。振り返りカードを利用して専科担当が評価を行うことで、学級担任の評価に係る業務のバランスが良くなったとの声が上がっています。



ただ、外国語専科担当教諭が1名しかいないため、平成32年度からの外国語の教科化に向けて、評価の方法や項目などを学校全体で精査し、共有していく必要があります。

もちろん、専科担当にもメリットがあります。外国語ボランティアの方から様々な指導法や教材、英語の表現などについてアドバイスをいただき、指導の引き出しが増えることで、子どもがさらに生き活きと活動するような自らの指導技術の向上につながる事が、大きな利点です。

担任外が専科担当となっているため、急な補欠指導などでスケジュールを変更せざるを得ない時は、担任外の予定を記した掲示板を利用し、対応できるようにしています。



成果（☆）と課題（★）

- ☆教材研究や打ち合わせ、授業、評価を専科担当が行うため、学級担任間で評価の業務が均衡する。
- ☆外国語ボランティアの豊富な知識や経験などから、外国語の指導方法のバリエーションが増え、子どもたちが生き活きと活動することができる。
- ★外国語の教科化などを見据え、評価の方法や項目などを学校全体で精査する必要がある。

子ども理解につながる高学年担任の専科指導

札幌市立平岸高台小学校

実施学年と学級数	実施教科等	実施時期（時間）	指導者
4・5・6年（各1学級）	道徳	通年（各学年1時間ずつ）	学級担任（4年）
4・5・6年（各1学級）	音楽	通年（各学年1時間ずつ）	学級担任（5年）
4・5・6年（各1学級）	算数（4年）・ 外国語活動（5・6年）	通年（各学年1時間ずつ）	学級担任（6年）
4・5・6年（各1学級）	理科	通年（単元ごとに実施）	担任外（教務主任）

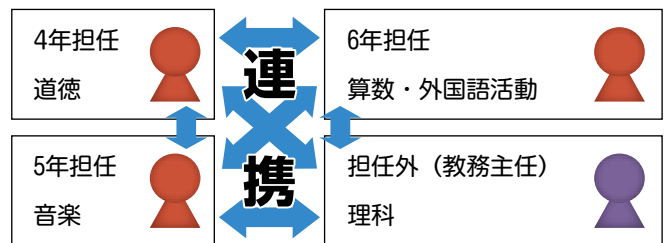
学校づくり編

小規模校における専科指導を行う体制づくり

児童数204名の本校では、高学年の担任3名が次の四つのねらいをもって専科指導を行っています。

- 1 教員がもつ専門性や指導力を生かし、子どもの学習意欲と、主体的に学習に向かう姿勢を育む。
- 2 高学年を中心に専科指導を行い、中学校への円滑な接続と子どもの心理的なギャップの軽減を目指す。
- 3 担任以外の教諭が授業を行うことで、子ども理解を深め、単学級によるデメリットを軽減する。
- 4 複数の学年を一人の教師が指導することにより、指導方法や指導方針を統一し、効果的な学習の積み上げを目指す。

専科指導の実施に当たっては、基本の曜日と時間に基づき、2週分の時間割を発行する時に併せて、時間の調整、進捗や内容の確認等を行っています。



3人の担任が子どもを見つめることで、子どもを多面的にとらえる

実践編

専科指導の授業が始まった当初に、子どもの中には緊張した様子も見られましたが、徐々に変化が表れ、今では楽しみにしている子ども、張り切る子どもが多く見られるよ



うになりました。

専科担当も、適度な緊張感をもちながら、指導に当たってきました。現在は、各学級の子どものコミュニケーションが活発になり、放課後の職員室では、子どもの名前とともに具体的な取組の交流が、自然に生まれています。そこからは、一人の担任だけでは把握できなかった、より確かで多面的な子ども理解が可能になっていることが分かります。

成果（☆）と課題（★）

- ☆協同体制をとることにより、教員の子どもの理解が深まります。
- ☆専科担当が4・5・6年生の3学年を指導することにより、発達の段階に合わせた指導を行うことができます。
- ★より適切で過度な負担のかからない評価方法について、検討を続けていく必要があります。

専科指導を円滑にするための校務分掌の精選

札幌市立発寒南小学校

実施学年と学級数	実施教科等	実施時期（時間）	指導者
5年（2学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（教務主任）
6年（1学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（保健主事）
	家庭・音楽	各学期1～2単元	

学校づくり編

専科担当と学級担任の役割等

専科指導を実施するに当たって、専科担当となる担任外の負担が増えることが懸念されたため、担任外の業務内容を次のように見直しました。

① 保健主事が担当する特別支援コーディネーターを2人から3人体制としました。専科指導中であれば、不登校の子どもへの対応は、学級担任が行うことにしました。



② 授業者が評価を行うという原則から、評価は専科担当が行います。通知表や指導要録への当該教科等の記入も、専科担任が行うことにしました。

③ 時間割については、学級数が少ないため、曜日や時間を固定せず、学年打合せの時に担任外・学年双方の翌週の予定を確認し、調整しながら計画を立てていくことにしました。



④ 担任外の専科指導中に、学級担任は担任外の業務の一部を代行に行うこととしました。現状を工夫することにより取り組むことができましたが、今後は学校全体での校務分掌の見直しについても検討が必要です。

実践編

指導と評価の一体化と担任外業務の整理

○指導と評価の一体化

外国語活動は、学習時の姿を中心に評価を行うため、授業後に一人一人に振り返りカードを書かせ、学習記録を残しました。授業中にも、適時、子どもの様子を記録するようにします。そして、単元の終了時には、一人一人の観点別の評価を行いました。

単元ごとに評価をまとめることで、子どもの学びの様子を常に把握しておくことができました。また、それに合わせた教材研究を深く行うことができました。



6学年では、家庭科と音楽でも専科指導を行いました。単元の学習内容については担任と打合せ、授業後や単元の評価は、授業を行った専科担当が行いました。

○依頼する担任外業務の整理

始めたばかりの頃は、その日の業務の中で簡単に任せられそうなものを学級担任にお願いし、授業中に行ってもらいました。しかし、この方法では、お願いすることを毎日考えなければならない、担任外にとっても負担となってきました。そこで、毎時間ではなく、ひと月分の業務をまとめて依頼することにしました。そうすることで、学級担任も計画的に取り組むことができ、学級事務との兼ね合いも考えて作業できるようになりました。

翌年のことも見越し、月毎の依頼業務を整理しているところです。

○担任外業務のうち、依頼できるもの	
4・5月	: 運動会・PTA関係 文書印刷・配付
6月	: 文書整理
7月	: 校内掲示板 写真差し替え
8・9月	: PTAバザー 補助
10月	: 学校要覧 作成
11・12月	: 卒業文集 下読み
2・3月	: 校内掲示板 写真差し替え

成果（☆）と課題（★）

☆専科担当が評価を行うことで、評価についての信頼性を高めることができました。

☆学級担任と専科担当との間で、子どものよさや課題についての情報を共有することができ、学級経営や指導上の問題解決に有効でした。

★学級担任に、担任外の業務について、何をどのようにやってもらうのか、年間を通して整理することが必要でした。内容についても、さらに精選していくことが必要です。

指導体制の工夫による効果的な専科指導の導入

札幌市立山の手南小学校

実施学年と学級数	実施教科等	実施時期（時間）	指導者
5年（3学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（教務主任）
6年（3学級）	外国語活動	通年（週1時間ずつ）	担任外（保健主事）
5年（3学級）	家庭	後期（10月～2月）	担任外（再任用教諭）

学校づくり編

①教育活動の見直し ②継続性のある指導 ③専門性を生かした指導

①教育活動を「見直し」、効率的な指導体制を考える

専科指導を考える際に問題となるのは、専科指導に関わる担任外の業務が増えることにより、専科指導の本来の目的に支障をきたすことです。

本校では、教職員の過度な負担を考慮し、効率的、効果的な教育活動の実現を図るべく、行事や教育活動の吟味と精選を行いました。その結果、今年度から、校務分掌を子どもの育みを軸にした、「学ぶ力育成部」「豊かな心育成部」「健やかな身体育成部」「信頼される学校創造部」の4部に再構成しました。それにより、抜本的に業務を見直すことができ、効果的な指導体制の在り方について考えることができました。

②学校にとって「継続性」のある専科指導

専科指導での二つ目の問題点は、次年度につながる「継続性」のある指導になっているかどうかです。指導者が代わっても行えるよう、誰でもできるような専科指導について考えました。そこで、まず、過度な負担にならない実施

方法や、信頼性や妥当性の高い評価について検討し、次年度以降も行えるような方法を考えました。

③「専門性」を生かした専科指導

再任用教員の専門性を生かした専科指導（高学年家庭科）にも取り組みました。そのため、指導工夫改善に係る加配申請時に計画したTT・少人数指導の時間数について、再任用教員と担任外が、計画的に指導に入るなど、組織的な専科指導の在り方も検討しました。その他にも社会や道徳などで、次年度に向けた、専科指導の試行を行っています。



業務改善、継続性を担保しながら、専門性を生かす専科指導

実践編

5年生 Hi, friends!
Lesson1 振り返りシート

名前()

1. 外国語活動の振り返りをしよう。(はくでせう、てまひ、できごと)

	月	日	月	日	月	日
積極的にあいさつをしようと思いました。						
英語でのあいさつや、自分の名前の言い方に慣れました。						
世界には様々な言葉があることを知りました。						

2. 楽しかったこと、がんばったことを書こう。

①業務の均衡を考え、効率化を図る

専科指導の在り方を考える際に業務分担、校務分掌の見直しをすることで、専科指導が可能な状況が生まれました。業務の見直しをせずに専科指導のみを実施するのではなく、同時に業務の均衡を考えることで、担任の空き時間を確保することができました。

②子どもの学びの積み上げを評価に生かす

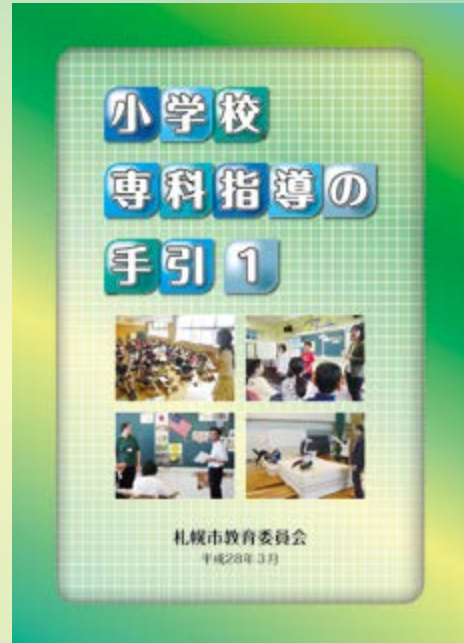
外国語活動の評価には「振り返りシート」の活用が効果的でした。子どもにとって、単元で目指す姿を見えるようにするとともに、教師にとっても評価に生かすことができるようにシートを作りました。継続してシートを使うことで、子どもの活動が積み上がっていく姿を具体的に捉えることができました。

③「専門性」を生かすことで学びの質を上げる

子どもたちにとっても、教師の「専門性」が生きる専科指導は学びの質を高めるために、とても効果のある取組となりました。

成果（☆）と課題（★）

- ☆業務の見直しを図ることで「継続性」「専門性」を生かした専科指導ができました。
- ★専科指導の時間を増やすためには、より一層の業務の見直しを図ることが必要となります。



【参照】 小学校専科指導の手引1
平成28年3月作成・発行

小学校 専科指導の 手引 2

平成29年2月

編集 札幌市教育委員会教育課程担当課
発行 札幌市教育委員会
札幌市中央区北2条西2丁目
印刷 富士プリント株式会社
札幌市中央区南16条西9丁目

作成委員

百合が原小学校 主幹教諭 渡邊 要
厚別北小学校 教諭 岩澤 寧子
平岸高台小学校 教諭 工藤 真理
元平岸高台小学校教諭
現前田小学校 教頭 松本 昌也
発寒南小学校 教諭 松本 美幸
山の手南小学校 教諭 佐野 浩志
(実践例の掲載順)

事務局

札幌市教育委員会 教育課程担当課